



# アメリカ医療の トリセツ

取扱説明書



渡米してすぐの方も、長年こちらに住んでいる方も、米国医療に関するになると「よくわからない」「もっと知りたい」と感じている方も多いのではないのでしょうか。そこで、ミシガン大学の家庭医学科の先生方に医療に関する様々なトピックについてまとめていただき、連載でご紹介します。

Vol. 02

## 検体検査や画像検査の受け方、及び結果の聞き方について

**体**調が悪いとき、怪我をしてしまったとき、あるいは健康診断の際に検体検査や画像検査を行うことがあります。アメリカでも、日本で受ける医療と同様に、まずは病院や診療所を受診したうえで必要な検査を決めることから始まりますが、その先は日本での一般的な医療の流れと少し違うところがあります。今回は一般的に行われる検体検査や画像検査の受け方、及び結果の聞き方について解説します。

### 検体検査の受け方

#### ●血液検査・尿検査 *Blood work, urinalysis*

一般的な血液や尿検査は医師が検査依頼をすると予約なしで検査室に行き受けることができます。小規模の診療所では検査室で検体を採取してから、より大きな検査室に検体を送って実際の検査をしてもらうことが多く、病院では自前の検査室で検査を行うことがほとんどです。その為、同じ検査を受けても結果が届くまでに差がある場合があります。現在は新型コロナウイルスの影響で検査室が一部閉鎖、または受付時間の変更をしている場合がありますので検査を受ける際には注意が必要です。

#### ●その他の検査

##### ●PAP スメア (子宮頸がん検診) *PAP smear*

この検査は診療所などでの婦人科検診の受診中に必要に応じて行われます。以前に受けた検査が常に正常であった人は毎年受ける必要はなく、3-5年おきに受けることが一般的です。この検査は生理中を避けて行う必要がありますので、受診当日に生理中であった場合には後日受診しなおすこととなります。

##### ●便検査 *Stool test*

ピロリ菌や食中毒の検査で行われることが多く、一般的に診察を受けたときに必要と判断されると検査が依頼されます。その場で検体を取ることができなかった場合は家に検体採取用の道具と容器を持ち帰り、後日検査室に持ち込むこととなります。

##### ●COVID-19 (新型コロナウイルス) 検査 *Covid-19 test*

現在のところ診療所や病院では主に感染が疑われる人のみ検査を依頼しています。また、手術や内視鏡検査の準備のために検査を受ける場合は、その都度指示があります。検査は全ての診療所でできるわけではなく、指定の場所に受けに行くことになります。日本への里帰り前などに感染をしていないことの確認をするための検査はurgent care clinicや薬局などに行くことができます。ミシガン州内で検査を受けることができる場所はこちらから検索できます。

<https://www.solvehealth.com/search?cobrandedSrLocation=MI>

Washtenaw countyの情報はこちら:

<https://www.washtenaw.org/3158/Testing>

### 画像検査の受け方

#### ●レントゲン *X-rays*

胸部のレントゲンや骨のレントゲンは多くの場合予約なしで受け付けています。小規模の診療所にはレントゲン撮影機がない場合があり、その場合には検査のできる場所の案内があります。

#### ●マンモグラム *Mammogram*

マンモグラムはレントゲンの一種ですが特殊な撮影機器と特別な訓練を受けたレントゲン技師が必要のため、限られた場所で行われています。その為事前に予約をして受けることとなります。

#### ●超音波 *Ultrasound*

超音波検査は検査をする体の部位により、超音波の機材や検査技師が異なってくる為、検査室によって行うことができる検査の種類が変わってきます。その為事前の予約が必要です。超音波検査は、超音波技師によって行われて、必要な映像が放射線科医に送られて、正式な読影が行われた後、検査を依頼した医師のところに結果の報告が送られます。超音波検査技師は結果の説明をしてはいけないう決まりになっているので、超音波検査の時には、たとえ問題がなかったとしても検査の結果は説明してもらえません。

#### ●CT/MRI検査 *CT scan / MRI scan*

CTやMRI検査は写真の写りを良くするために造影剤を注射して撮影することがあります。腎臓の働きが弱い人は注意が必要なため、前もって血液検査を行ってから撮影をすることもあります。また、過去に造影剤を使ってアレルギーが出た方は注意が必要です。特にMRIは狭いトンネル内に入り込むようになって撮影が行われるため、閉所恐怖症の方は不安を抑えるお薬を飲んで備えることがあります。これらの検査も撮影機器がある場所が限られていますので事前の予約が必要です。

#### ▶以前かかった病院からの画像検査結果の持ち込み

日本やアメリカ国内の別の病院で画像検査を受けたことがある場合、CDにその画像を保存してもらい新しい病院に持ち込むことができると放射線科医が以前の所見と新しい画像の所見を比較検討して報告書を作ることができます。

#### ▶予約までの待機期間

どの検査であっても緊急性のあるものは当日救急救命室(ER)で、または1両日中に検査室で行うことができる場合がほとんどです。それ以外の場合には、状況に応じて、やはり早めに行った方が良い検査を優先しながら予約が受け付けられます。例えば、胸にしこりがあるが癌かもしれない、という人のマンモグラムは、1年に1回検診のためにマンモグラムを受けている人よりも優先的に受け付けられます。

### 特殊検査

#### ●内視鏡検査

##### (胃カメラEGD・大腸内視鏡 *Colonoscopy*)

内視鏡検査は何らかの病気を疑う場合や大腸がん検診などで行われます。アメリカでは胃がん検診は一般的には行われません。検査は診察をした医師が必要と判断した場合に依頼が送られます。この検査は限られた施設で行われることと、食事制限などの準備が必要なため前もって予約をする必要があります。また、検査中に眠くなる薬を注射されるため、運転と付き添いをしてくれる大人と一緒にいく必要があります。現在はさらに検査の72時間以内にCOVID-19(新型コロナウイルス)検査を受ける必要があり、内視鏡検査室のスケジュール担当者が手配してくれます。

#### ●組織検査(生検 *Biopsy*)

内視鏡検査中にポリープが見つかった場合などはその場で組織をとって検査に送られます。またマンモグラムや他の画像検査で腫瘍が見つかった場合に詳しい情報を得るために組織検査を行います。この場合は画像検査の結果が出てから改めて組織検査をする予約をとることとなります。組織検査は超音波やCTを使って、組織をとってきたい場所を確認しながら針を刺して行うことが一般的です。また、診療所で皮膚の一部やイボなどを取り除いたときにも組織検査に送られることがあります。

### 検査結果の聞き方

どのような検査を受けた場合でも、その結果は検査を依頼した医師のもとに届きます。一般的な血液検査やレントゲン検査は1-2日で結果が届く場合が多く、複雑な検査は結果が届くまでに長くかかります。例えば、大腸内視鏡検査を受け、ポリープが見つかった場合、切除をした場合、組織検査が追加されるので最終結果が出るまで余分に1週間近くかかることが一般的です。また、マンモグラムなどで以前の画像検査の情報を取り寄せて比較検討する必要がある場合、相手先からの連絡を待つ時間が加わります。さらに特殊な組織検査(遺伝子検査、癌の特殊組織検査)は結果が届くまでに2-3週間かかることが一般的です。

通常、大きな異常がない場合は電話や手紙、もしくはポータルというオンライン経由で結果が報告され、日本のように検査結果を聞くために予約して再診する必要はありません。検査結果次第では、予約して再診をしてもらうよう依頼されることもありますし、自分で検査結果を説明してほしい場合は予約して受診することもできます。検査結果を電話で説明することもあります。検査結果の説明を受けていないと感じた場合は、検査を依頼した医師に連絡して、説明をしてもらうことをお勧めします。



筆者プロフィール:  
医師 清田礼乃(きよたあやの)  
ミシガン大学医学部  
家庭医学科助教授

千葉県出身。聖マリアンナ医科大学卒業。University of Pittsburgh Medical Center Shadyside家庭医学研修、Detroit Medical Center/ Wayne State University ホスピス・緩和医学フェローシップ、University of Hawaii 老年医学フェローシップ、および University of Hawaii 医学教育フェローシップ修了。2016年よりミシガン大学医学部家庭医学科に所属し、Livonia Health Center, Chelsea Retirement Community, 及びミシガン大学病院にて家庭医学、老年医学、緩和医療の診療をしています。